

第 7 2 回
気仙沼みなとまつり

報 告 書

開催日：令和6年8月3日（土）
8月4日（日）

気仙沼みなとまつり委員会

第72回気仙沼みなとまつり骨子

◎8月3日（土）会場：港町/内湾会場

初日：港町臨港道路（交通規制…16:00～21:00）

- 「オープニングセレモニー」 17:30～18:00（港町臨港道路特設ステージ）
- 「はまらいんや踊り」 18:00～20:00（港町臨港道路）
- 「露店コーナー」 16:30～20:00（旧アベキ様駐車場・岡本製氷様駐車場・内湾会場）
- ☆「JC主管高校生応援企画」 16:00～17:15（港町臨港道路うんづら舞台）
- ☆「気仙沼YEG子育て応援コーナー」 16:00～20:00（かもめ食堂様後方敷地内）
- ☆「ないわん屋市・夜市」 16:00～21:00（南町海岸公園）

◎8月4日（日）会場：港町/内湾会場

2日目：港町臨港道路・南町海岸公園・気仙沼港内（交通規制…10:30～21:30）

≪昼の部≫

- 「みなとまつりパレード出発式」 11:50～12:00（港町臨港道路海の市付近）
- 「みなとまつりパレード」 12:00～15:00（港町臨港道路）
- 「カッター競漕大会」 13:30～15:30（内湾・船着き場付近）

≪夜の部≫

- 「夕の部セレモニー」 15:45～17:30（港町特設ステージ）
- 「打ちばやし大競演」 17:30～20:30（港町臨港道路）
- 「うんづら」 17:30～20:30（港町臨港道路）
- 「さんま船集魚灯披露」 18:00～20:30（カメイ前岸壁）
協力：第八十一豊清丸
- 「海上打ち上げ花火」 20:00～20:30（気仙沼湾内）
花火打上業者：芳賀火工
- 「露店コーナー」 11:00～20:30（旧アベキ様駐車場・岡本製氷様駐車場・内湾会場）
- ☆「気仙沼YEG親子縁日・子育て応援コーナー」
10:00～17:00（気仙沼お魚いちば駐車場ほか）
- ☆「ないわん屋市・夜市」 10:00～20:30（南町海岸公園）

■8月2日（金）会場：朝日ふ頭（商港）岸壁

- ☆「東京海洋大学練習船海鷹丸一般公開」 13:00～16:00
- ☆「海上自衛隊艦艇一般公開」 13:00～16:00

1. 特 徴

- (1) 今年のみなとまつりは、昨年度と同様に全ての行事を港町臨港道路内～内湾エリアを会場に開催した。来場者数は昨年度を上回る、震災以降最多の89,000人となった。
- (2) 8月3日（土）港町臨港道路を会場に開催の「はまらいんや踊り」は、今年度で30回を迎えた。それに併せて、はまらいんや踊りの創作と普及に貢献した「気仙沼市世代に架ける橋」へ感謝状を贈呈した。参加状況は、学校の部、サークル・自治会の部、企業の部から46団体、約2,100名であった。「おらほさはまらいんや」のたすきを目印とし、昨年度に続き観客の飛び入り参加を可とし「はまれる“はまらいんや”」にふさわしい行事となった。
- (3) 8月4日（日）正午からの「みなとまつりパレード」は、港町臨港道路を会場に、スタート地点をローソン港町店前、ゴール地点をみちのく建設工業前とするコースで実施した。停止演技場所はスタート地点付近と本部ステージ前付近の2箇所を設定した。スタート地点付近で出発式を行った後、会長、実行委員長、インドネシア駐日大使代理公使参事官が乗車した車両が先導を務め、11団体約500名の演舞が進行した。また、パレード出発式の前には、インターハイで優勝した気仙沼高等学校フェンシング部を称えるセレモニーを実施した。優勝メンバーを乗せた車両も先導車両に続いて進行し凱旋パレードともなった。
- (4) 「うんづら」は、今年も台船の確保が難しく、陸上での演奏となった。「うんづら」をまつり本部前に建設し「打ちばやし大競演」と一体となり演奏を行った。
- (5) 両日とも気温が高く熱中症が心配されたため、ステージ上の司会者による声掛けや会場アナウンスなどで演者や観客に水分補給や休憩を呼びかけ、大きな事故なく終了できた。
- (6) まつり前日の8月2日（金）には東京海洋大学の練習船「海鷹丸」、2日（金）と3日（土）には海上自衛隊の多用途支援艦「えんしゅう」掃海艇「みやじま」が商港岸壁に寄港し公開を行った。

2. まつり行事内容について

<8月3日（土）>

(1) 第72回気仙沼みなとまつりオープニングセレモニー

港町臨港道路に特設のまつりステージにて17時30分に開式。司会進行は、気仙沼出身フリーアナウンサーの岩手佳代子さんと気仙沼商工会議所青年部の一色法人さんに務めていただいた。

恒例の（一社）気仙沼青年会議所による勇壮な「銀鱗太鼓」がオープニングを飾った。気仙沼みなとまつり委員会会長の菅原茂市長の挨拶の後、ご来賓の小野寺五典衆議院議員から祝辞をいただくとともに、インドネシア共和国ヘリ・アフマディ駐日特命全権大使代理であるムハンマド・アル・アウラ公使参事官にご臨席いただき、お言葉を頂戴した。

(2) はまらいんや踊り（参加46団体、約2,100名）

「はまらいんや踊り」は臨港道路を会場に実施し、学校の部、サークル・自治会の部、企業の部から46団体、約2,100名が参加した。

バンド演奏は、昨年度と同様にドラムスのバイソン片山氏が参加できず、小山田和正氏に参加いただいた。団体名はバイソンバンドとそのままだに、迫力と熱気にあふれる演奏で大いに会場を盛り上げた。

昨年度と同様に観客の「飛び入り参加」を可とした結果、20団体が一般客の参加を受け入れることとなった。飛び入り参加受け入れ可能団体は、プラカード保持者が目印となるタスキを着用して受け入れ可能であることをアピールし、参加者と観客とが一体となれる行事を目指した。

今年は青年部の掛け声隊とともに各団体から募った子供たちの掛け声隊、11の打ちばやし団体が音楽にあわせて演奏した。こまめな休憩を挟みながら進行し、参加団体はそれぞれが趣向を凝らした衣装と踊りを披露した。参加者も観客もまつりを堪能し、熱気溢れた「はまらいんや踊り」となった。

また、今年度で30回を迎えるはまらいんや踊りを創作し普及に貢献してきた団体として「気仙沼市世代に架ける橋」へ長年の功績を称え感謝状を贈呈した後、併せて約30年前の誕生当時の振り付けで踊る時間を設け、会場全体で踊りを楽しんだ。



このタスキ
が目印です

<8月4日（日）>

(3) みなとまつりパレード（参加11団体、約500名）

「みなとまつりパレード」は会場を港町臨港道路とし、スタートをローソン港町店前、ゴールをみちのく建設工業前に設定し、停止演技場所はスタート地点付近と本部前ステージ付近の2箇所に設けた。司会進行は、岩手佳代子さんと気仙沼青年会議所の高橋紘明さんに務めていただいた。

パレード出発式を前に、インターハイフェンシング男子団体で優勝した気仙沼高等学校フェンシング部のメンバーにご参加いただき、その功績を称えるセレモニーを実施した。その後、11時45分からパレード出発式を行い、会長、実行委員長、主催団体長、インドネシア共和国駐日大使代理公使参事官、来賓等によるテープカットを陸上自衛隊東北方面音楽隊のファンファーレで行った。正午からは、会長、実行委員長、公使参事官及びホヤぼーやを乗せた自衛隊高機動車と、気仙沼高校フェンシング部の監督・メンバー等を乗せた高機動車を先頭にパレードがスタートした。

音楽隊の行進につづき、打ちばやし巡行や虎舞演舞、バンド演奏、神輿渡御など伝統あるパレードや青年部のインドネシアパレード、よさこい演舞などの趣向を凝らしたパレードが進行し、沿道に集まった観客からは、大きな拍手と歓声が起こり盛り上がりを見せた。気仙沼高校フェンシング部の凱旋パレードともなった。



(4) 第19回カッター競漕大会（参加12チーム）

「カッター競漕大会」は、内湾エリアを会場に往復約450m、3艇でのタイムレース形式で実施した。また、海上自衛隊の多用途支援艦「えんしゅう」の乗組員の方々にも出場いただいた。昨年と同様に気仙沼市役所OBの酒井勇一氏に協力を仰ぎ、ルールやコースを設定した。競技の結果、過去13回の出場経験を持つ「『大島』火消しの椿」が3年連続5回目の優勝を飾った。



(5) ステージイベント

15時45分から、市やみなとまつりに縁のある4つの団体がステージ発表を行った。仙台市に拠点を置く団体「羽跳天」のよさこい演舞、気仙沼市民吹奏楽団によるブラスバンド、みなと気仙沼大使の北野都さんによる歌唱披露、ホヤぼーやとSCK GIRLSによるステージなど、歌や踊り、演奏やパフォーマンスで観客を魅了した。



(6) 夕の部セレモニー・打ちばやし大競演（参加27団体、約680名）

会場を港町臨港道路（神興冷機前からみちのく建設前）にして、市内の和太鼓団体27団体、約680名の打ち手が600基余りの太鼓を並べ演奏を披露した。司会進行は気仙沼出身のフリーアナウンサーである菅原克彦さんに務めていただいた。

17時から本部前特設ステージにて、夕の部の始まりを告げるセレモニーを実施。ご来賓や主催団体長登壇の中、気仙沼みなとまつり委員会実行委員長菅原昭彦商工会議所会頭の挨拶に続き、第八十一豊清丸の中舘捷夫漁労長によるさんま船集魚灯披露が行われた。打ちばやし団体の紹介に続き、鼓遊座の畠山差紗有さんによる「初っ切り太鼓」を皮切りに、打ちばやし大競演がスタートした。

夕の部では、「打ちばやし大競演」「うんづら」「海上打ち上げ花火」「さんま船集魚灯披露」の各行事が連動したプログラム構成で、気仙沼の夏の夜を賑やかに演出し、みなとまつりならではの迫力ある情景を創出した。



(7) さんま船集魚灯披露

平成25年（第62回）からご協力をいただいている、第八十一豊清丸による「さんま船集魚灯」は夜の港町を明るく照らし、来場者に感動と笑顔を与えていた。



(8) うんづら

（一社）気仙沼青年会議所の「うんづら」は、みなとまつりで大漁と海上安全を願う象徴として今年も実施された。うんづらをまつり本部前に建設し「打ちばやし大競演」と共に陸上での太鼓演奏となった。

（一社）気仙沼青年会議所メンバーの心意気にあふれた太鼓演奏は、夕闇に浮かぶ七福神の輝きとともに観客を魅了した。



(9) 海上打上げ花火

今年も「海上打ち上げ花火」が、20時からまつりのフィナーレを飾った。今年も県内の花火業者である芳賀火工の花火師が、気仙沼の夜空に華麗な花火を打ち上げた。

花火は、オープニングスターマインで開幕。4号玉、5号玉、7号玉、8号玉、10号玉（尺玉）の連発打上げと、色と光の美しいジャンボスターマインなどとともに、芳賀火工が得意とする水中花火も行い、約2,400発を打ち上げた。打ちばやし大競演やうんづら、さんま船集魚灯とのコラボレーションで、気仙沼港を華やかに彩った。

また初の試みとして、(株)大島汽船の「やしま丸」を利用した(株)ツアーウェーブ主催「花火観覧ツアー」も実施された。JR仙台駅東口からまつり会場までの往復ツアーで、旅行代金は1万5000円、40人を募集したところ25人が参加した。参加者は会場を散策後、花火を海上から観覧。参加者からは「まさに特等席だった」「すごい迫力だった」「また来年も実施してほしい」などの声が聞かれた。花火の打上げ位置と観覧船の安全な保安距離を確保した航路の調整が難航したが、関係各所の協力もあり、25名の参加者は、気仙沼湾横断橋（かなえ大橋）と夜空に映える花火のコントラストを楽しんだ。

(10) 露店コーナー

昨年度と同様、旧アベキ様駐車場と岡本製氷様駐車場2か所を確保し、29店舗が出店。1日目は16時、2日目は11時から開店し、多くの人で賑わった。

3. 協賛行事などについて

(1) 寄港イベント

まつり前日の8月2日（金）13時から、東京海洋大学の練習船「海鷹丸」の一般公開が商港岸壁で行われた。平成24年3月に締結した「国立大学法人東京海洋大学と気仙沼市の連携協力に係る協定」に基づく取り組みの一環として、平成30年以来6年ぶりに実施された。

また特別プログラムとして2日（金）と3日（土）の2日間にわたって、海上自衛隊の多用途支援艦「えんしゅう」と掃海艇「みやじま」も一般公開。セレモニーや乗船見学を行い、見学者は普段見ることの出来ない光景に目を輝かせていた。

(2) JC高校生応援事業

（一社）気仙沼青年会議所による「高校生応援事業」が3日（土）の16時からうんづら舞台上で行われた。市内の高校生のバンド演奏やダンス部の演技など、多彩な発表があった。

(3) ないわん昼市・夜市

昨年度に引き続き、気仙沼まちなかプラットフォームの主催で、南町海岸公園で行われる毎月恒例の「ないわん朝市」のまつり版として、3日（土）16時から21時と、4日（日）11時から21時に開催された。約50店舗が出店し、会場は賑わいを見せた。

(4) 気仙沼Y E G親子縁日・子育て支援コーナー

新規事業として、気仙沼商工会議所青年部の主催による“親子支援事業”を実施した。3日（土）には「気仙沼Y E G子育て応援コーナー」として、授乳やオムツ交換ができるスペースを提供し、子育て世代でも安心してまつりを楽しむことのできる空間を創出した。

4日（日）は子育て応援コーナーに併せて、「気仙沼Y E G親子縁日」を実施。輪投げやヨーヨー釣り、ボウリングなどで子どもが遊べるスペースを提供するとともに、保護者が飲食・休憩できるスペースを用意した。また、10種類のデザインから選べるフェイスペイントコーナーや、宮城県内Y E Gから協力・提供された、古着等の無料配布コーナーを設置。不用品を新たな持ち主の方へ循環し、SDGsに配慮した事業を展開した。

4. 人 出

まつり当日の人出は、8月3日（土）が 36,000人(71回同)、 4日（日）が昼の部14,000人・夕の部39,000人の計53,000人（昨年比2,000人増）となった。二日間合計では89,000人（昨年比2,000人増）となった。

5. 天 候

◇ 8月3日（土）

初日は、終日晴れ。夕刻からは気温も下がり始めたものの、気温が高い状態が続いた。
（最高気温29.9度 18時頃の気温26.1度）

◇ 8月4日（日）

2日目は、終日晴れで真夏日となった。最高気温は30℃を超え、熱中症の危険が懸念される天候となった。（最高気温31.8度 18時頃の気温26.7度）

6. 出 動

	今年度（72回）	昨年度（71回）
気仙沼警察署	80 人	100 人
気仙沼市交通指導隊	45 人	48 人
気仙沼市防犯実働隊	51 人	48 人
気仙沼市海上保安署	7 人	2 人
気仙沼消防署（消防本部含む）	29 人	44 人
気仙沼消防団	131 人	134 人
気仙沼市役所	302 人	382 人
気仙沼市青少年支援センター	0 人	0 人
（公社）気仙沼シルバー人材センター	14 人	20 人
警備艇	12 人	15 人
警備部会・警備会社	70 人	96 人
気仙沼商工会議所	30 人	34 人
早稲田大学 学生ボランティア	32 人	23 人
合計	803 人	946 人

※2日間の延べ人数

7. シャトルバスほか交通機関の臨時便について

BRTの最終ダイヤ（両日とも）

◎気仙沼線BRT

南気仙沼駅…21:24発（松岩・階上経由：本吉行き）

◎大船渡線BRT

内湾入口（八日町）駅…21:13発（鹿折唐桑経由：盛行き）

8. 警備・交通規制

昨年度と同様に、全ての行事を震災以前の会場（港町臨港道路内～内湾エリア）で開催するにあたり、一部区間（ローソンみなと町店からお魚いちばまでのホテル観洋下の道路は北進のみの片側一車線通行）を除き、3日（土）は16時から21時まで、4日（日）は10時30分から21時30分まで、会場付近一帯を車両通行禁止とした。会場近辺の来場者の動線確保と混雑緩和のため、規制区間の車両と人が交差するポイントなどにコーン・バーや警備員を配置し安全確保に努めた。

港町の岸壁については、海中転落などの危険を防止するため、近辺にコーン・バーや警備員を配置し進入禁止の注意喚起に努めた。また、万が一に備え、岸壁付近に救命用浮き輪やハシゴを設置した。まつり委員会の警備計画のほかに、市職員の有志やボランティアなど独自の人員を会場付近や駐車場などに配置し警備にあたった。

9. 事 故（カッコ内は昨年の数字）

まつり期間中に会場付近で発生した事故等の件数は以下の通り。

・ 人身事故	0件（0件）	・ 物損事故	0件（0件）	・ けが病人	0件（1件）
・ 遺失	22件（0件）	・ 拾得物	68件（0件）	・ 迷子	2件（1件）

気仙沼警察署や気仙沼海上保安署、気仙沼消防署ほか警備に携っていただいた各団体の協力に感謝する。

10. 清 掃

まつり会場内にエコステーションを設置し、本年も学生ボランティアの呼びかけにより、来場者には分別の徹底やゴミの持ち帰りに協力をいただいた。

会場周辺の清掃については、8月4日（日）・5日（月）両日ともに南町・内湾地区・港町において下記の団体の協力をいただき実施することができた。

早朝清掃協力者

（公社）気仙沼シルバー人材センター、市民憲章推進協議会気仙沼地区部会、
気仙沼海友会、全国海友婦人会気仙沼支部、気仙沼市婦人連絡協議会中央婦人会、
（株）気仙沼商会、気仙沼市役所、気仙沼商工会議所